



安全衛生は、 コストではなく経営です。

事故が起きる前から、利益・採用・定着は静かに削られています。
「安全衛生は現場の仕事」と切り分けた瞬間、稼働ロスも、人の離脱も、採用難も、
経営に返ってきます。

利益

止まるたび、
利益は削られる。

採用

危ない職場は、
選ばれにくい。

定着

整わない職場ほど、
人は残らない。



数字で見ると、安全衛生はもう現場論ではない。

労働災害は特殊な問題ではなく、現場のつくり方や作業の決め方の差が、日々コストとして顕在化する経営課題です。

休業4日以上の死傷者数

135,718人

4年連続で増加

60歳代以上の死傷年千人率 4.00

稼働ロス

事故対応、代替要員、工程遅延は、現場費ではなく利益を削る。

採用不利

「安全に働ける会社か」は、求人票の外から見られている。

定着悪化

危ない・言いにくい・疲れる職場ほど、人は残らない。

経営で押さえる論点

事故件数だけを見ると手遅れです。

見るべきは「どんな災害が起きているか」「どの事故型が多いか」「どんな災害を繰り返しているか」「誰が疲れているか」「我が社は・・・」。つまり、安全衛生は、現場のスローガンではなく、経営の優先順位づけです。

出典：厚生労働省「令和6年の労働災害発生状況」（令和7年5月30日公表）



現場は30日で、ここまで動けます。

大きな制度より、「見る・決める・直す」を先に回す。経営層と工場長が、最初の1か月でそろえるべき論点です。

1 最優先の事故型を1つ決める

転倒、腰痛、墜落。全社一律ではなく、事業場ごとに絞る。

2 現場を1か所だけ直す

動線・置場・荷姿。今日の不便を、今週の改善に変える。

3 毎週1つだけ追う

ヒヤリ件数、是正率、教育後フォロー。先行指標で、止まらない運用にする。

まず30日で、ここまで動く

1週目 事故型を決める

過去1年の災害・ヒヤリを並べる
部署別、職場別に
件数と重大さを見比べる

2～3週目 1現場だけ直す

巡視で歩行・荷役・姿勢を確認
設備・導線・置場をその場で修正する

4週目 会議で追う

是正完了を確認し、次を決める
先行指標を毎週の定例に入れる



相談すると、経営判断が速くなります。

抽象論ではなく、「どこから直すか」が見える形に変えます。

問い合わせると、こんなことが早く進みます

01

事故型の見極め

どの事故を先に止めるか、事業場ごとの優先順位が見える。

02

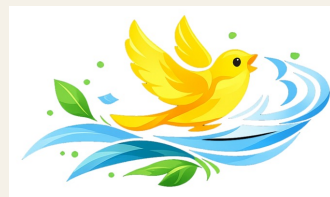
打ち手の整理

設備・動線・教育・巡視の、どこに手を入れるかが整理できる。

03

止まらない進め方

現場任せで止まりやすい改善を、会議で追える形に変えられる。



会社情報

屋号	衛 整
住所	岡山県岡山市南区浦安本町16-6
TEL	090-7973-6845
Mail	info@katayama-eisei.jp
Web	https://katayama-eisei.jp/

整えるほど、経営は守れます。